

パートナーシップおかや

No. 30

岡谷市男女共同参画推進市民の会

道半ばで想うこと

長野県男女共同参画センター“あいとぴあ” 所長 白鳥 こそえ

岡谷市男女共同参画推進市民の会の皆さまには、日頃から熱心に男女共同参画推進の活動にお取り組みいただき、心より感謝申し上げます。

昭和59年、この岡谷市に長野県の男女共同参画推進の拠点施設が設立されてから33年が経ちました。この間、多くの方々のご尽力により、徐々にですが、男女共同参画の意識も浸透してきているように感じています。

ご存知のように男女共同参画への取り組みは、時代とともに少しずつ変化してきています。これまでは男女の平等を目指し、社会的に刷り込まれた“こうあるべき”といった性差意識を解消するための活動が中心でしたが、現在は年々表面化してきている様々な課題に向き合い、多面的に取り組むことが求められています。

このところ各方面で話題となっている「女性の活躍」もそのひとつです。国の働き方改革などによって女性が社会に出て働きやすいように環境整備も進められています。それにより、働きたいと希望する人の誰もが、社会の中で自分の持つ力を存分に発揮できるようになれば、それは大変有意義なことであり、こうした女性の社会進出を定着させることも男女共同参画を推進する上での大事な取り組みのひとつであると考えることが出来ます。

また、暴力や貧困など、男女共同参画を阻害する問題は数多くあります。とかく自分と直接関わりのないことには無関心になり勝ちですが、今世の中で、どんなことが起こっていて何が安心して暮らせる権利を脅かしているのかを広く“知る”ことは大変重要になってきています。当センターもそうした情報の発信拠点としてお役に立てれば幸いです。

男女共同参画は、男女を問わず互いの人権を尊重し、家庭や地域の中で、それぞれがその個性も能力も十分に発揮することが出来る、という基本理念に基づいています。そこには人の意識が大きく関わっていますので、法の整備はもちろんですが、それだけで簡単に変えることはできません。たとえ時間はかかっても、地道な取り組みを続けていくことが必要だと感じています。

今はまだ男女共同参画社会づくりの途中にいます。これからも皆さまのお力添えを頂きながら、誰もが伸びやかに生きることが出来る社会の実現に向け一歩ずつ進んで参りたいと思っています。



「男女共同参画社会づくり ポスターコンクール」…今年も力作が多数寄せられました ～「審査会」が行われ入賞・入選作品が決まりました～

今年も、市内の小学生(高学年)・中学生の皆さんから、「男女共同参画社会づくりポスター」が多数寄せられました(小学生:60点・中学生:27点=計87点)。どの作品も、夏休み中に描かれたもので、男女



共同参画社会づくりの趣旨に沿った分かり易い絵柄や文言が、豊かな色使いとデザインで表現された力作揃いとなりました。

この87点の応募作品の中から、最優秀賞はじめ入賞・入選作品を選ぶ「ポスターコンクール審査会」が、9月15日、市庁舎9F大会議室で開かれ、計14点(小学生の部8点、中学生の部6点)が選定されました。審査は、7名の方々(岡谷市企画政策部長、岡谷市教育長、小・中学校の校長・先生方、男女共同参画審議会会長、市民の会会長)にお願いしましたが、甲

乙付けがたい作品群を前に、何度も協議を重ねられ、慎重に審査されていました(写真)。

なお、入賞、入選者の表彰は、各々の保護者の方にも出席いただき、10月3日(火)、市庁舎9F大会議室で行われる予定です。また、入賞、入選作品はじめ応募作品全点は、10月21日に開催される「おかや市民のつどい」の会場(カノラホール)に、11月にはイルプラザ3Fカルチャーセンター(催場)に展示され、多くの市民の皆さんにご覧いただくことになっています。

又ウェック
平成29年度「NVEC男女共同参画推進フォーラム」に参加しました

NVEC(国立女性教育会館)＝埼玉県嵐山町＝を会場に、3日間(8月25日～27日)にわたり、「男女共同参画推進フォーラム」が開かれ、全国から1100人以上(3日間合計)が参加されました。

岡谷市からは、下記の内容で行われた初日(8月25日)のフォーラムに、5名(「市民の会」小池会長他3名、事務局1名＝右写真)が参加、「特別講演」を聴講するとともに、『小・中学生(子ども)を通しての男女共同参画意識の啓発』をタイトルに「ワークショップ」を主催(プレゼンテーション&懇談(意見交換)のファシリテーター)しました。



- ・13:30～:「特別講演」(講師)山口香さん(ソウルオリンピック柔道銅メダリスト、筑波大准教授)
・演題「変わる勇気、変えるアクション～女性も男性もともに暮らしやすい社会を創る～」
- ・15:30～:「ワークショップ」＝15の団体が主催(夫々がテーマに沿ったタイトルを掲げて実施)

「男性・女性の機能には違いがある。その違いがあることに価値を見出し、互いに尊重し合う」

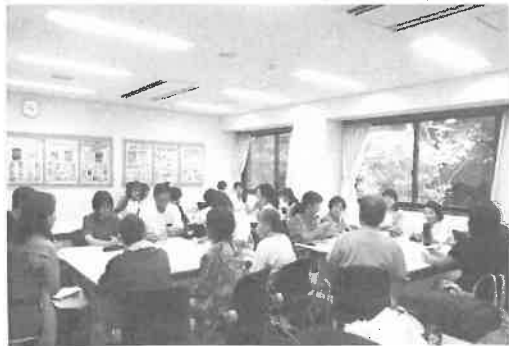
山口 香さんの「特別講演」…大変分かり易く、示唆に富んだ内容でした (報告:今井和子)

「特別講演」内容(要旨):「主張することの大切さ」をスポーツマンらしい口調で説いて下さいました。

- ①東京オリンピックが開催された年(1964年)に生まれた山口さんは、幼少の頃、テレビドラマ「姿三四郎」に憧れて柔道を始め、男子にまじって試合に出場した。長年、男性のスポーツとされてきた柔道界に女性が入ってきたことで、当時は周囲から「女だてらに、女のくせに」「女の子らしいスポーツがあるのにと」言われた。やれば出来る能力があるのに、女性であるが故に抜擢されない、認められないCulture(ものの考え方)がスポーツ界にもあり、「社会の縮図＝スポーツ」であった。
- ②長い時間の中で人の心に刷り込まれたジェンダー・バイアス(社会的・文化的な役割面での性差・偏見)というCulture(ものの考え方)を改めることは容易ではなく、自分が生きてきた時代・信じてきたもの・自分の人生を否定することにも繋がりがかねないが、とくに女性には「意識を変えようとする勇気が必要である」と思っている。
- ③「意識を変える」キーワードは「Culture Mind Set (疑問を持ちながら、ものの見方・考え方を変えていこうとする気概をもち主張・行動すること＝注:私の解釈です)」である。
- ④男性、女性の機能には「違い」がある。男は子どもを産めない。この機能の違いを認識し価値を見出し、尊重し合って歩み寄る。「違い」はマイナスではなく「プラス」を導いてくれるものである。
- ⑤女性であっても、何かに「たったひとり」で立ち向かうことが求められることが必ずある。自らの力を信じて立ち向かう勇気が自立への道に繋がる。Mind Set をフラットにして「変えるアクション」をとることが大切だ。(注:私はこの「フラット」の意味を「バランス感覚を保ちつつ」と理解しました)

「ワークショップ」…多くの皆さまと交流でき、新たな刺激をいただきました (報告:伊藤綾子)

「小・中学生(子ども)を通しての男女共同参画意識の啓発」というネーミングが関心を呼んだのか、多くの皆さま(約40人)に参加いただけ、急きょ椅子を追加したり、50部用意・持参した資料も不足してしまうなど、予想を上回る反響をいただくことが出来ました。また、私たちの今後の活動の方向を示唆してくれる貴重な提言・意見等もいただくことが出来ました。



ワークショップ前半は、小池会長より岡谷市の概況、「市民の会」の活動状況、とくになぜ子どもを対象に意識啓発をしているのか、具体例を挙げて説明しました。参加の皆さまから「ポスター、かるた作りの資金は?」「寸劇や漫画を作って大人に投げ掛けてみたが伝わらなかった。子どもを対象に意識啓発する岡谷市の取り組み方は参考になった」「小・中学校の教育現場の理解はどのように得るのか?」などの質問・意見が出されました。

後半は、3グループに分かれての「意見交換・懇談の場」の場としました(上写真)。北海道・九州・沖縄など遠方からの参加者もおられ、地域の違い、若者の発想の多様性などにまで話は及び、場が盛り上がりました。

事務局の全面的な協力があって出来た「ワークショップ」でしたが、主催することで、より深い交流と新たな刺激を受けることが出来たと実感しています。

ワークショップタイトル「小・中学生(こども)を通しての男女共同参画意識の啓発」 ワークショップ冒頭の「プレゼンテーション」(話題提供)

岡谷市(「市民の会」)が主催した標記ワークショップでの冒頭、「市民の会」小池喜代会長は、概ね下記内容のプレゼンテーション(事例発表・話題提供)を行いました(右写真)。パワーポイントで具体的事例(写真等)を示しながらのプレゼンテーションは参加者の大きな関心を集め、ワークショップ後半の意見交換(懇談)会が盛り上がる切っ掛けともなりました。

(注記)なお、伊藤綾子さんの報告(2頁)もご参照ください。



1. 岡谷市の概況について説明

- 1) 平野村から一躍「岡谷市」となった。昭和30年代に隣接3村と合併。産業構造を製糸業から精密機械工業へと転換。昭和55年、人口62,210人の市に発展。現在は、精密機械加工技術を生かした「スマートデバイス」産地に。2) 人口推移:昭和55年(62,210人)より減少に転じ、現在49,364人(その主な原因=とくに首都圏への若年層流出、出生率低下・少子高齢化、等)

2. 岡谷市の男女共同参画推進の取り組み状況説明・報告

- 1) 岡谷市教育委員会に「婦人対策担当」を設置した昭和63年以降の主な取り組み・動きを報告
 - ① 市民会議(「市民の会」の前身)の設立(H14年)
 - ② 「条例」の施行と「審議会」の設置(H16年)
 - ③ 男女共同参画担当を教育委員会から市長直轄部へ移管(H18年)
 - ④ 「岡谷市女性行動計画策定(H6年)」から「男女共同参画おかやプランV策定(H27)」に至るまでの「行動計画」策定の経緯
- 2) 男女共同参画「おかや市民のつどい」を、毎年秋から初冬の時期に実施。

3. 子どもを通しての「意識の啓発活動」を行う考え方・理由 および進め方について説明

- 1) 考え方・理由:「人権(男女平等)」「男女共同参画」の意識啓発は、幼少期からなされるのが理想的であり、その意識を子ども期から学び高め、周囲(両親・保護者や地域他)に広げたい。
- 2) 進め方:常に行政との協働の形(行政の後援をいただきながら)で行う。

4. 「まんが冊子“わたしらしくあなたらしく”」の企画・制作の経過、および活用事例の紹介

- 1) 平成19年から、行政、教育委員会(小学校校長先生)と協働で企画・制作、2年後のH21年に完成。
- 2) 「まんが冊子」の内容8項目(「男女平等ってどういうこと」他7項目)の内容紹介
- 3) 平成21年より市内全小学校(7校)の5年生に「冊子」を配布～以降も毎年配布～今後も継続(予定)。
注)「冊子」の扱い方は学校・学級担任に一任。家庭に持ち帰って家族とともに見ることも勧める。
- 4) 「冊子」配布・活用を契機に実施した「男女共同参画啓発活動」について概略を報告
 - ① 平成22年度「おかや市民のつどい」で、小学6年生による「読后感発表会」を企画・実施。参加されたとくに高齢者の方々の関心を集める。
 - ② 平成23年度「おかや市民のつどい」で、中学生4人(平成21に初めて「まんが冊子」を配布された生徒)による「男女共同参画に関する意見発表会」を企画・実施。
 - ③ 平成25年度「おかや市民のつどい」では、識者をコーディネーター、中学生4人をパネリストに、「意見発表」と、「ミニパネルディスカッション」を実施。

5. 平成22年度より継続して「男女共同参画社会づくりポスターコンクール」を実施

- 1) 小学生(高学年)、中学生の夏休み自由課題として「ポスター作成」・「コンクール応募」を展開・継続。
- 2) 行政・教育委員会(学校関係者)他の方々とともに「ポスター審査」を行い、優秀・入選作品を選定・表彰。
- 3) 毎年、応募全作品を市施設等に公開展示、広く市民の皆さんに見ていただく。
- 4) 応募されたポスターのオリジナル図柄を利用したグッズ(ポケットティッシュペーパーの「カバー絵柄」に使用、入賞作品をレイアウトした「男女共同参画啓発ポスター」作成、等)を制作、学校・区に配布。

6. 子ども(小学生低学年)向け「男女共同参画かるた」の作成経過とその活用事例の報告

- 1) 小学生低学年層にも理解して貰えるツールのひとつとなるよう、市内小学校長会の了解を得て、児童からも「かるた文言(案文)」・「絵柄(一部)」を募集する。2) かるた読み札(文言)は、市内小学校の校長先生方と緊密に連携、吟味を重ねた上で作成。3) 「長野県地域発元気づくり支援金」の支給申請を行い、採択されことで作成に弾みがつく。4) 完成したかるた(セット)は、各小学校に学級数に応じて配布。扱いは学校に一任する。5) かるたを使っでの「啓発活動」を行っている(①学童保育、放課後こども居場所づくり事業=放課後教室=での「人権教育」等にサブ教材として活用 ②新聞・テレビ等でも好意的に報道される ③かるた絵札をレイアウトしたグッズ「書類ホルダー(クリアファイル)」を作成・配布する)

7. 活動の成果と今後の課題について紹介

- 1) 子どもを通して行ったことで、父母・保護者・学校関係者・高齢者の男女共同参画意識に変化が伺える。
- 2) 女性のキャリア形成を可能とする環境が不十分な現下の状況を改善するためにも「結婚に関する意識啓発」と「働き方改革」を進める必要がある。

「おかや市民のつどい」開催に向け準備が進んでいます

開催日：10月21日(土) ～話題の映画「あん」を鑑賞：男女がともに生きるヒントをみつけましょう～

「岡谷市がめざす『男女共同参画社会』のすがた(注)」を鑑^{かがみ}に「おかや市民のつどい」の開催に向け、準備が進められています。

(注) ○男女がともに人権を尊重し認め合いながら ○喜びも責任も分かち合い ○自らの意思によって、家庭・地域・職場・学校など様々な分野に対等な立場で参画し ○一人ひとりの個性と能力を十分発揮しながらいきいきと生活している (「男女共同参画おかやプランV」)

岡谷市(企画政策部企画課)の実行委員募集の「呼びかけ」に応募された皆さま(17名)は、実行委員会をこれまでに2回(7月10日および8月9日)開催。「つどい」の企画(内容)、市民の皆さまへの周知・誘引方法等を検討するとともに、実行委員としての「役割分担・相互の連携」を確認し合う等、開催に向けての準備を進めています。これまでに次のような事項・内容が検討・決定されています。

- ①今井郁乃さん(岡谷市女性団体連絡協議会会長)を実行委員長とする「実行委員会」が、7月10日に立ち上がりました。
- ②事務局(企画政策部企画課)より(案)として提示された「つどい実施内容」(下記枠内)を、全会一致で確認しました。また、より多くの市民の皆さまに気軽に参加いただけるよう、新たに午前11時から「交流イベント」(内容下記)を行うことを決定しました。

日時：10月21日(土) 11時～15時40分(開場11時00分) 場所：カノラホール(小ホール)
 内容：11:00 開会 ～ 小・中学生「男女共同参画ポスター」展示(1階ロビー、小ホール入口前)
 岡谷市女性団体連絡協議会の各団体「交流イベント」(於：小ホールホワイエ)
 ・各団体の活動等展示 ・各団体自慢の物品販売
 13:00 オープニングセレモニー(○市長あいさつ ○「市民の会」プレゼンテーション ※)
 13:20 映画「あん」(川瀬直美監督作品)上映(協力：「岡谷スカラ座」)
 15:20 閉会

※「市民の会」は、映画「あん」が上映される前の約10分間、「子ども(小学生低学年)向け男女共同参画かるた」(一部)をスクリーンに映し出し、「男女共同参画についての基本的なプレゼンテーション」をすることになっています。

- ③今年、入場無料の映画会をメインイベントとした「つどい」としたので、市民の皆さまの参加は相応数見込めるものの、「入場整理券」を300枚用意し、後援団体として名を連ねた全13団体は、各々の会員・市民の皆さまと丁寧な対面・対話に努め、周知・参加誘引につなげる。

世界ランキング総合111位(とくに経済分野はさらに低迷118位)!

スイスの民間研究機関「世界経済フォーラム」は、2016年の「男女平等度の総合ランキング」を公表、

男女平等度ランキング

2016年	15年	国名
1	1	アイスランド
2	3	フィンランド
3	2	ノルウェー
13	11	ドイツ
17	15	フランス
20	18	イギリス
35	30	カナダ
45	28	アメリカ
50	41	イタリア
111	101	日本

「日本は144か国中111位(過去最低)で、先進7か国(G7)では最下位」と報じました(左表参照)。これは、4分野(政治・経済・教育・健康)の男女格差を、同フォーラム独自の方法で算定して結論付けられた順位です。

一方、日本のマスメディアは、「(日本は)『女性活躍推進法』の施行から1年が過ぎ、この間、多くの企業が、管理職や役員の女性比率引き上げに努力しており、“男女平等度向上に一定の成果がみられる”。しかし、“企業の管理職に限らず、あらゆる分野での指導的地位に占める女性の割合を2020年までに30%にする(政府目標)”の達成には、解決すべき多くの課題が残されている」と報じています。

私たちは、この報告・報道を、単に「情報」として鵜呑みにするだけでなく、次の①現状、②③識者の見解と合わせ、今後の「市民の会」活動を進める糧としたいものです。

- ①下記の職業分野でも指導的地位に占める女性の割合は低水準(総理府2017年2月取りまとめ)
 国会議員(衆議院)=9.3% 同(参議院)=20.7% 国家公務員(本省課室長相当職以上)=4.3%
 都道府県議会議員=9.8% 都道府県職員(本庁課長相当職以上)=8.5% 医師=20.4% 歯科医師=22.4% 薬剤師=66.1% 裁判官=20.7% 検察官(検事)=22.9% 弁護士=18.3%
- ②日本女性医師会の前田佳子会長(談)：出産、育児のために離職する女性医師は多く、医療の現場は、どうしても男性中心の働き方になっている。
- ③日本女性法律家協会の紙子達子会長(談)：依頼人との深夜の打ち合わせなど、女性にとって働きにくい環境が残っている。女性比率を高めるには働き方(依頼の受け方)などの改善が必要。